

毎年11月20日は伊勢志摩国立公園の日

世界水準のナショナルパークを目指す
伊勢志摩国立公園

早春の便り

伊勢志摩
国立公園の日
vol.4

発行／(一財)伊勢志摩国立公園協会、三重県 協力／環境省伊勢志摩国立公園管理事務所 編集協力／(有)伊勢文化舎 発行日／令和2年1月10日



伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの野口あゆみ事務局長



表彰式でスピーチをする阪本氏



東海中学校郷土芸能クラブの生徒らによる人形芝居の上演

第2回

石原円吉賞が決定！

志摩市立東海中学校郷土芸能クラブ
伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
写真家・阪本博文氏「伊勢志摩国立公園の日」(11月20日)の記念イベント、
“Happy Birthday! 伊勢志摩国立公園”が
11月16日に開かれ、会場となった海の博物館で第2回
石原円吉賞の表彰式がありました。国立公園の自然と
文化を愛する「現代の円吉翁」たちの言葉をお聞きの
ください。

第2回石原円吉賞は、志

摩市の国指定重要無形民俗
文化財「安乗の人形芝居」
を継承している志摩市立東
海中学校郷土芸能クラブ、
伊勢志摩観光のバリアフリー
化を大きく推進した鳥羽市
のNPO法人伊勢志摩バリア
フリーツアーセンター(中村元
理事長、伊勢志摩を中心
に祭りや暮らしを30年以上
撮り続けてきた伊勢市在住
の写真家阪本博文氏、の2
団体1個人に贈られました。特別賞はエッセイスト・
川口祐二氏特別賞には、伊勢志摩を
はじめ全国各地の漁村を開

受賞者そろうの記念撮影

式の後、東海中郷土芸能
クラブに所属する生徒
4人が、稽古を積んで
きた演目の一部を披露。
2体の浄瑠璃人形を表
情豊かに操り、来場者
を魅了していました。石原円吉賞は、伊
勢志摩国立公園協会
の主催。戦後初の国
立公園指定実現に力
を尽くした志摩出身の
政治家石原円吉(18
77-1973)の志に
なつて、同国立公園
の地域文化の継承や発
展、自然保護、景観向上
などに努めた個人や団体を
表彰しています。※受賞者の活動と喜びの声
は、次の見開きページに掲載。News
横山展望台行きバス
試験運行！
志摩MaSaアプリ開始志摩市の近鉄鵜方駅―横
山展望台間を含むオンデマ
ンドバスやオンデマンドタ
クシー、マリンキャブ(海上
タクシー)が一つのアプリで
利用できる、志摩MaSa
(マース)の実証実験第2弾
が2020年1月9日(同
3月末)に実施されます。

01

鵜方・賢島駅と周辺観光
地の交通を便利にするため、
近鉄グループホールディン
グスが主体となって行う事
業で、三重交通や志摩マリ
ンレジャーなどが参加。ス
マートフォンやタブレット
端末向けに配信される予定
の志摩MaSa専用アプリ
「ぶらりすと」で、ルート検
索から予約、クレジットカー
ド決済まで手続きの一括化
を実現します。予定のルートや乗降地は
次の通り(変更の場合あり)。

オンデマンドバス

▼鵜方駅―横山展望台
▼大王崎灯台(波切魚市場―
ともやま展望台(桐垣展望台)
オンデマンドタクシー
市内約40か所の乗降ポイント
(乗降例)▼賢島駅―横山展望台
▼志摩磯部駅―志摩スベイン村
▼さとうみ庵―和具港 など

英虞湾マリンキャブ

乗降地Ⅱ賢島港、志摩観光
ホテル、志摩ベイサイドテ
ラス、賢島宝生苑、志摩自
然学校、間崎島、浜島港、
御座港、和具港、真珠の里、
パール美樹詳しくは、1月9日開設
予定の志摩MaSaカスタ
マーセンター(TEL052-8
56-2266)まで。Topic
歩いて楽しむ！
伊勢志摩の
絶景・名所めぐり伊勢志摩国立公園協会は、
中日文化センター主催の「歩
いて楽しむ！伊勢志摩の絶
景・名所めぐり」の講師を
務めています。
毎月1回、伊勢志摩の絶
景と人々の暮らし、そして

03



02

歴史に触れながらのウォー
キングです。2018年春
から半年単位で実施し、全
60コースを5年間でかけて踏
破します。2020年1月は南伊勢町
「五ヶ所・浅間山」、2月・3
月は志摩市の「鵜方・賢島」
と「立神」の各コースを予定
しています。詳しくは、津中
日文化センター(TEL059-
225-8411)まで。01. 前回の実証実験
で横山VC前に停車し
たオンデマンドバス(写
真は志摩市提供)
02. 相島の魚市場から
海岸沿いを通って鯨
崎に向かう(「相島の
岬めぐり」コース)
03. 雄大な太平洋が一
望できる安乗岬園地。
灯台の参観も(「国府
～安乗岬」コース)

3月中頃になると、一足早い陽光桜が咲き始める(志摩市横山)

第3回2020年
石原円吉賞推薦
今年6月募集開始！石原円吉賞は6月頃募集を開始し、伊勢
志摩国立公園の指定日(11月)に合わせて
表彰式を行います。伊勢志摩国立公園の最
大の魅力は人と自然の関わりを感じることに
できるところであり、今後も同国立公園の保
全や活用に取り組み、魅力ある地域づくりを
行っている方々の活動にスポットを当ててい
きます。推薦の受付・表彰式については、詳細
が決まり次第案内させていただきます。皆さ
まの推薦をお待ちしています。

〈候補者の推薦〉

公募により行います。表彰の対象者は、長
年、伊勢志摩国立公園の地域文化の継承や適
正な活用の推進、動植物の保護などを行って
いる方やグループ・団体です。(若干名)石原円吉 いしはら けんきち
(1877-1973)
英虞郡和具村(現在の志摩市
志摩町和具)生まれ。家業の
かたわら政界に進出し、日
本の水産業発展を牽引。伊
勢志摩の国立公園指定にも
奔走した。伊勢志摩国立公
園協会初代会長。海の博物
館創設者、同初代館長。(一財)伊勢志摩国立公園協会
〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1丁目2383-22
TEL&FAX.0599-25-2358
http://www.ise-shima.or.jp/

お問い合わせ先 >>>

三重県農林水産部みどり共生推進課
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL.059-224-2627 FAX.059-224-2070
伊勢志摩国立公園インスタグラム nationalpark_ishima
https://www.instagram.com/nationalpark_ishima/



国指定重要無形民俗文化財「安乗の人形芝居」の伝承
志摩市立東海中学校郷土芸能クラブ

**この賞をきっかけに、
伝統を引き継いでいく**

志摩市の安乗地区に40年余りにわたって伝わる伝統芸能「安乗の人形芝居」。三味線や語りに合わせて人形を操るもので、毎年、安乗神社秋季例大祭の舞台上で披露されてきました。

以前は地元の安乗人形芝居保存会が旧安乗中学校の文楽クラブを指導してきましたが、同中学は平成30年に東海中学校に統合。これに伴い東海中学校に郷土芸能クラブが発足して、安乗地



壇上で挨拶をする3年生ら

区以外の生徒も含めた新体制で再始動しました。本年度は全年17人が所属し、例大祭で「鎌倉三代記 三浦之助母別れの段」を見事に演じました。



2019年9月、東海中学校のクラブで初となった安乗神社例大祭での披露(写真は志摩市提供)

表彰式には3年生4人が出席。順番に挨拶し、松井幸大さん(15)は「この賞をきっかけにこれからも伝統を引き継いでいければ」と述べました。3年生らは引退を間近に控え、後輩たちが引き継ぐことにも期待していました。

選考委員を代表して皇学館大学名誉教授の櫻井治男氏が、「安乗地区に伝わるものを東海地区の郷土芸能クラブでも、伝えて、継承することが重要で印象深い。地域の支えが重要」と講評しました。

第2回 石原円吉賞

受賞者の活動と喜びの声



伊勢志摩を中心に祭りや生活風景を撮影
写真家・阪本博文氏

**「故郷を旅する」の言葉とともに30年
奥深い魅力を抱えている地域と実感**



カメラを構えて祭りに迫る阪本氏(右端)

立公園の自然風景も記録し、『伊勢志摩国立公園五十年史響きあう人と自然』をはじめ数多くの書籍や写真展などに掲載・展示し、発信に貢献してきました。

表彰式で阪本氏は、「私が好きな言葉は『故郷を旅する』。行くたびに発見や出会いがあり感銘を覚える。奥深い魅力を抱えていると実感する」と郷土愛を表しました。

櫻井氏は、阪本氏の作品から受ける印象を「魅せるためではなく、自然のままの祭りの姿を撮っていらっしやる」と評しました。



鳥羽市答志島の答志地区の神祭(八幡祭)を撮影した作品(写真は阪本氏提供)



伊勢志摩の観光バリアフリー化
法入 **伊勢志摩バリアフリーツアーセンター**

**国立公園とバリアフリーは相反しない
訪れて良かったと言える環境をつくる**

2002年、鳥羽市に窓口兼事務局を置いて設立し翌年、NPO法人に。高齢者や障害者の観光に役立つバリアフリー情報の発信や、施設のバリアフリー化の指導、車椅子の貸し出し、モニターツアーの実施等に取り組んできました。

地域のエコツーリズム推進にも積極的に、2018年に設立した伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会に準備段階から参加しています。

表彰式の壇上で野口あゆみ事務局長(48)は、「国立公園は自然の多いところ。私たちはハード面を整えて車



貸し出ししている水陸両用車椅子

を通れるようにしたいのではなく、身体が不自由でもその魅力をそのままに楽しめる観光地をつくっていきたい」と理解を求めました。また受賞については、円吉翁の長男で前年に亡くなった石原義剛前海の博物館館長との思い出を振り返り、「まだ館長に話せることが足りない」と述べ、励みにしていました。

一方で選考委員の櫻井氏は、「設立して17年は決して短くない。重みがある」と実績を強調しました。



鳥羽1番街にあるセンターの窓口



漁村の民俗文化や環境問題を発信
エッセイスト・川口祐二氏

**「野行き山行き海辺へ行き」の60年
生涯、国立公園の語り部でありたい**

日本全国の漁村を訪ねて、沿岸漁業をはじめ人々の暮らしや文化、自然など幅広いテーマを取材。中日新聞朝刊伊勢志摩版の連載コラム「ふるさと再発見」や書籍等に発表してきました。近著は『海女をたずねてー漁村異聞その4』。



環境保護活動家でもあり、70年代に漁村から合成洗剤をなくすことをいち早く提唱し実践運動をした功績もあります。三重大学社会連携研究センター特任教授。南伊勢町生まれ、87歳。旧南勢町役場の職員時代に自然公園指導員を兼務。伊勢志摩国立公園圏域再編成の仕事にも関わりまし



川口氏の著書は30冊以上を数える

た。退職後も精力的に全国各地を訪ね、表彰式では「野行き山行き海辺へ行きの60年だった」と振り返りました。さらに「私は生涯、伊勢志摩国立公園の語り部でありたい。美しい渚に立って心の洗たくをする自分でありたい」と衰えぬ意欲を示しました。

櫻井氏は、川口氏の人柄について「常に地域のみなさんといっしょに暮らしている、どこかにいつもいらっしやる親しみのある方」と讃え、健勝を祈っていました。

講演やクラフト体験も

**海の博物館館長が語る
円吉からの「宿題」とは？**

伊勢志摩国立公園の日を記念するHappy Birthday!伊勢志摩国立公園のイベントでは、表彰式のほか講演、海の博物館内ツアー、クラフト体験もあり、参加者が自然を楽しく学べる機会となりました。

講演は「沿岸漁業を守るためにー石原円吉の功績ー」と題し、平賀大蔵海の博物館館



講演する平賀氏

長が、戦前戦後に漁業者のリーダーや政治家として活躍した円吉の生涯を紹介。なかでも大正から昭和の戦後にかけて、水質汚染や乱獲から海の資源を保護した姿に焦点を当てました。

工場進出に反対して近海の水質汚染を防いだエピソードから、円吉がいなければ「いまの伊勢志摩国立公園のあり方が大きく変わっていた可能性がある」とし、水産資源の減退枯渇を指摘した発言も取り上げ「円吉からの宿題は今も生きている」と訴えました。

**国立公園を
楽しく学ぶ**

貝と真珠のクラフト体験

イベント最後のクラフト体験では、真珠や貝殻、色とりどりのビーズを連ねて自分だけのストラップを制作。

伊勢市から子ども連れで参加した女性は、「歴史のある国立公園なんだと勉強になりました。会場に車で来る途中にカキ養殖の風景が見られて、自然に触れて元気をもらえる一日でした」と笑顔で話していました。



クラフト体験をする参加者ら